

<エンジョイ！軟式野球フェスティバル 2025 における暑熱対策について>

公益財団法人日本スポーツ協会

1. 試合実施方法

- (1) 試合は、日中の気温が高い時間帯を避け、午前の部(8:00～9:30)と夕方の部(16:30～20:30)に分けて実施する。
 - *1 会場あたり午前の部:1 試合、夕方の部:2 試合を実施
 - *1 試合あたり 1 時間 15 分(均等回完了までの時間を除く)で実施
- (2) 各会場において、「試合開始前」と「試合中(各イニングの開始前)」に WBGT 指数を測定し、WBGT31℃以上となった場合は試合を開始せず、その後の対応については「2. 暑さ指数(WBGT)の測定方法およびその対応」のとおりとする。
- (3) 午前の部および夕方の部ともに、当初の終了予定時刻(※)は変更しない。
 - ※ 【午前の部】9:30、【夕方の部】20:30
 - ※ 夕方の部第 1 試合に関して、18:15 以降は新しいイニングに入らないこととする。

2. 暑さ指数(WBGT)の測定方法およびその対応

【試合開始前】

- (1) 会場ごとに、試合開始 5 分前にホームベース上において測定し、会場担当者(1 名)、会場主任審判(1 名)および両チームの監督(各 1 名)の計 4 名で数値を確認する。
- (2) (1)で、WBGT31℃未満の場合、試合を開始する。
- (3) (1)で、WBGT31℃以上の場合、午前の部・午後の部ともに当初の試合開始予定時刻の 60 分後を最終として、5 分毎に再測定を行う。
- (4) (3)の再測定については、会場担当者(1 名)が測定し、WBGT31℃未満であった場合、会場担当者(1 名)、会場主任審判(1 名)および両チームの監督(各 1 名)の 4 名で数値を確認した上で、試合を開始する。
- (5) (3)で、気象庁が発表している天気予報において、気温が上がる事が予想される場合、60 分を待たずに、両チームの監督が合意の上、抽選で勝敗を決めることができる。

【試合中(各イニングの開始前)】

- (1) 各イニングの開始前に、ホームベース上において、会場担当者(1 名)が測定し、WBGT31℃未満であった場合、試合を継続する。
なお、夕方の部に関しては、WBGT31℃未満で推移していることが確認できた場合は、主催者の判断で以降の測定を省略することができる。

- (2) (1)で、WBGT31℃以上であった場合、会場担当者(1名)、会場主任審判(1名)および両チームの監督(各1名)の計4名で数値を確認し、その時点で試合を中断する。その後、当初の試合開始予定時刻の60分後を最終として、5分毎に再測定を行う。再測定については、【試合開始前(4)】を準用する。

なお、気象庁が発表している天気予報において、気温が上がることが予想される場合、60分を待たずに、両チームの代表指導者が合意の上、抽選で勝敗を決めることができる。

3.「熱中症特別警戒アラート」が発表された際の対応

- (1) 試合日前日に「熱中症特別警戒アラート」が発表された場合は、翌日に予定している全試合を中止する。

なお、中止となった試合の扱いについては主催者間で協議のうえ決定することとする。大会本部からの連絡に留意すること。

※ 「熱中症警戒アラート」が発表された際は、試合当日、会場ごとに WBGT 指数を測定し、実施の有無について判断をする。

4. 勝敗の決定方法

別紙「エンジョイ！軟式野球フェスティバル 2025 競技規則等について」3.(3)を適用する。

5. その他

試合開始前のウォーミングアップに関しては、障害予防の観点から WBGT 指数による制限は設けない。

ただし、こまめな水分補給や日陰でのアップ等、各チームにおいて注意を払いながら対応すること。

なお、試合が中断した場合については、原則として再開までベンチ内で待機することとする(※)。

※ 障害予防の観点から、ベンチ外野側角からポール方向のファウルテリトリーでの軽いキャッチボールのみ可とし、再開の際は、投手は準備投球を行ってから再開する。なお、準備投球数については、待機時間を考慮し、審判の指示において決定する。